

ブログ「中東と石油」:https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943

ブログ OCIN the Cloud:<https://huangyeyiye.blogspot.com/>

ホームページ OCIN INITIATIVE:<http://ocininitiative.maeda1.jp/>

ホームページ MY LIBRARY:<http://mylibrary.maeda1.jp/>

マイライブラリーNo.:0530

(注)本稿は 2021 年 4 月 16 日及び 18 日の 2 回にわたりブログ「中東と石油」及び「OCIN the cloud」に掲載したものです。

2021.4.23

本年 1-7 月の OPEC+(プラス)協調減産を検証する

本年(2021 年)1 月から OPEC とロシアを中核とする非 OPEC 産油国は新たな協調減産体制のもと、毎月閣僚会合(OPEC and non-OPEC Ministerial Meeting)をビデオ会議方式で開催し、減産量を調整している。

本稿は昨年 12 月の閣僚会合で合意¹された Reference Production(参考生産量)及び 1 月以降の Adjustment(減産量)並びに Required Production(基本生産量から減産量を引いた各国生産量)について 1 月から 7 月までの決定事項をまとめたものである。

* 詳細な数値については「[OPEC 及び Non OPEC の協調減産量\(2021 年 4 月現在\)](#)」(表 1-D-2-35)参照。

協調減産体制に参加しているのは以下の通り OPEC10 カ国及び非 OPEC10 カ国の合計 20 の産油国である。なお OPEC 加盟国のうちイラン、リビア及びベネズエラ 3 カ国は経済制裁あるいは内政の混乱により原油生産が極端な不振状態にあるため協調減産には加わっていない。

OPEC(10 カ国):

アルジェリア、アンゴラ、コンゴ、エクアトル・ギニア、ガボン、イラク、クウェイト、ナイジェリア、サウジアラビア、UAE (アルファベット順)

非 OPEC(10 カ国):

アゼルバイジャン、バハレーン、ブルネイ、カザフスタン、マレーシア、メキシコ、オマーン、ロシア、スーダン、南スーダン(アルファベット順)

1. Reference Production (参考生産量)

12 月に決定された Reference Production(以下 Ref. Prod.)はサウジアラビアとロシアが共に 1, 100 万 B/D である。両国に次ぐ有力産油国の生産量は OPEC ではイラク(465.3 万 B/D)、UAE (316.8 万)、クウ

エイト(280.9 万 B/D)であり、また非 OPEC ではメキシコ(175.3 万 B/D)、カザフスタン(170.9 万 B/D)などである。

Ref. Prod.は OPEC と非 OPEC(以下 OPEC プラスと略称する)の協調減産が始まった 2018 年 12 月に各国の直前の生産量をもとに算定されたものであるが、OPEC プラスの二大産油国サウジアラビアとロシアについては今回 1, 100 万 B/D に統一された。この結果 12 月の合同閣僚会合で 20カ国合計の Ref. Prod.は 4, 385.3 万 B/D となり、これが今年1月以降の減産調整の基準となっている。因みに OPEC と非 OPEC の内訳は OPEC 2, 668.3 万 B/D、非 OPEC 1,717 万 B/D である。

2. Required Production (所定生産量): 720 万 B/D 削減で始まった 1-3 月の協調減産

今年 1 月初めの OPEC プラス閣僚会合では 1 月以降▲720 万 B/D 減産、Required Production(以下 Req. Prod.) 3,665.3 万 B/D でスタートし以後毎月見直すこととなった。昨年 4 月の会合では 7-12 月の削減量は▲770 万 B/D とし、今年 1 月以降は▲580 万 B/D に緩和(すなわち 770-580=190 万 B/D 増産)することとされていた。しかし 2021 年以降の需要回復に慎重なサウジアラビアと減産緩和を主張するロシアの主張が対立し、結局今年 1-3 月は昨年 7-12 月に比べ 50 万 B/D 減産を緩和する(▲770 万 B/D →▲720 万 B/D) ことで両者は妥協したのであった。

両国の Ref. Prod.は同じ 1, 100 万 B/D とされ、減産量▲720 万 B/D を各国に平等に割り当て、減産率は▲17%となった。但し協調減産に当初から頑強に抵抗していたメキシコは今回も減産率ゼロとされた。また減産緩和強硬派のロシア及びカザフスタンに対しては 2, 3 月にかけて合計 15 万 B/D の減産緩和(すなわち増産)が認められた。

1 月の会議直後、サウジアラビアは 100 万 B/D を自主的に追加減産すると発表して関係者を驚かせた。真意は不明であるが、直前に米エネルギー庁長官が来訪しており、バイデン新政権に押し切られたとの見方もある。OPEC プラス会合とサウジの自主減産を合わせると、3 月の Ref. Prod. は OPEC が 2, 111.9 万 B/D、Non OPEC が 1, 468.4 万 B/D、合計 3, 580.3 万 B/D とされた。主な国の Req. Prod.はサウジアラビアが 811.9 万 B/D(自主減産 100 万 B/D を含む)、ロシアは 924.9 万 B/D、イラク 385.7 万 B/D、UAE262.6 万 B/D、メキシコ 175.3 万 B/D(協調減産に加わらず当初 Ref. Pro.のまま)などである。

3 月 4 日の合同閣僚会合では 3 月の Req. Prod.を 4 月いっぱい継続することが決議された。

3. 5-7 月の協調減産

直近の 4 月 1 日の合同会合では 5, 6, 7 月の削減量が協議され、OPEC プラス合計で 5 月▲655 万 B/D、6 月▲620 万 B/D、7 月▲575.9 万 B/D 減産され、サウジアラビアの自主減産も 5-7 月の 3 か月間で解消されることとなった。この結果 7 月の OPEC プラスの Req. Prod.は 3,809.4 万 B/D(内訳: OPEC2, 303.3 万 B/D、非 OPEC1, 506.1 万 B/D)となり、国別の減産率はほぼ一律に▲13.7%に統一されている。国別の Req. Prod.ではサウジアラビアとロシアが同じ 949.5 万 B/D である。その他主な国ではイラク 401.6 万 B/D、UAE273.5 万 B/D クウェイト 242.5 万 B/D 等である。

4. むすび

先に触れた通り昨年 4 月の合同会合で ha
今年 1 月以降、2022 年 4 月までの減産幅を▲580 万 B/D と決定していた。今回の会合で決定した 7 月
の減産幅▲575.9 万 B/D はほぼこの水準に戻ったことになる。

翻ってサウジアラビアとロシアについて今年 1 月以降の実生産量を OPEC 月報あるいはロシア石油省
統計で見ると、サウジアラビアの生産量は 907.7 万 B/D(1 月)、812.3 万 B/D(2 月)、809 万 B/D(3 月)で
あり、またロシアは 1,017.0 万 B/D(1 月)、976.4 万 B/D(2 月)、1,024.9 万 B/D(3 月)であった。一見する
とサウジアラビアの 2-3 月は 100 万 B/D の自主減産分を含めてほぼ合意を順守している。一方のロシ
アは Ref. Prod.にオーバーしているように見える。(但し同国石油省の統計にはコンデンセートを含むため
原油の厳密な生産量は不明である。)

減産枠を遵守できるか否かの最大の要因は原油価格である。代表的な指標油種の Brent 原油の値動
きを見ると、1 月は平均 54.77 ドル、2 月 62.26 ドルであり、直近(4 月 15 日)は 66.34 ドルと堅調である。

コロナ禍の石油需要は流動的であり、また OPEC プラス各産油国の生産状況もイラン問題等をふくめ
見通しが立ちにくい。毎月開催される合同会合で現在の Req. Prod.が維持されるか否かは予断を許さな
い。

以上

本件に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

荒葉一也

Arehakazuya1@gmail.com

¹ The 12th OPEC and non-OPEC Ministerial Meeting concludes

2020/12/3 OPEC Press Release

https://www.opec.org/opec_web/en/press_room/6257.htm